

陶土屋さん
からの
ニュースレター

磁器 シキよまんば!

[早くよまなきゃ!]



巻頭のあいさつ

個展に伺いました♪

11月14日、「磁器作家 藤吉憲典の挑戦」と題して福岡市の福岡アジア美術館で開催された、花祭窯さまの展覧会にお邪魔してきました。会場には染付もあれば色絵磁器もあり、オーソドックスな食器もあれば一品もののアート作品もあり、表現に合わせて磁器土を使い分ける多彩で幅広い作品を拝見しました。

同じものを数十個制作する作品にも、一点ものの作品にも、土台には伝統技術があって、それを現代の生活様式や今の時代そのものにマッチさせてあり、「古典からアートへ」のサブタイトル通りでした。

花祭窯さまとの取引は、工房を佐賀県から



花祭窯 藤吉さんと

福岡県へ移転されてからのお付き合いで10年になります。粘土は宅配便でお届けすることがほとんどですが、時々直接お越しいただきます。

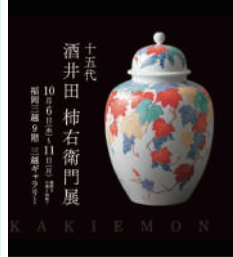
イギリスのロンドンでも個展をされています。またメディアに取り上げられ、NHKの「美の壺」や、福岡のローカル番組「前川清の笑顔まんてん タビ好き」「博多華丸・大吉のなんしょうと？」でテレビに登場されました。

10月には、博多大丸での鹿谷敏文さん、福岡三越での柿右衛門さん、それぞれの個展にも伺いました。来年こそは九州以外の地域にもどんどんお邪魔できる、そういう世の中になって欲しい。そう願っていますので、個展の案内などは是非お送りください! 洲野直幸



「鹿谷敏文さんの個展」

鹿谷さんと並んで撮るのを忘れてしまいました...



十五代 酒井田 柿右衛門展

花祭窯さまの作品を一部ご紹介♪



夏休みを利用して、姉兄と同じ大町自動車学校に通っていました。8月の大雨で学校はまた浸水してしまいました…。2年前の兄のときと同じです。しばらく休校となり、再開後に実技は卒業できました。しかし、試験場での学科試験に落ちるというまさかのハプニング。翌日に再チャレンジし無事合格できました!!



自動車学校

順天堂病院

運転免許取りました!

次女の水咲(みさき)です

現在、臨時採用教員として地元の小学校に3年目の勤務、4年生の担任をしています。来年度から新しい学校に新採として赴任することになると思いますので気持ちを新たに頑張ります!



報告が
ようやく嬉しい
出来ます!

長女の日報です



MARI の
ココロは
ひなまり

カキ小屋 シーズン到来!

サン・マリデザイン
オフィスの友永です!



私が住んでいる福岡県糸島

- 市には、4つの漁港があり、冬になると期間限定で漁師さんや漁業組合の方が運営するカキ小屋が続々とオープンします☆ その数およそ 30
- 店。外観は「建物」というかビニールハウスのようで、炭火やガスのコンロを囲んで椅子が置いてあり、キロ単位で売っている牡蠣を注文して自分で焼くスタイルです。



焼きたての牡蠣は最高☆

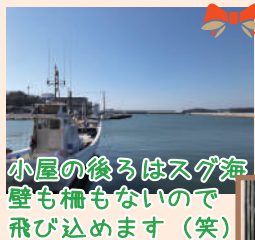
- 採れたての牡蠣を焼いて食べると、とっても美味しくて、毎回 120%満足してしばらく牡蠣は見たくないと思いつつ帰るのですが、もう次の日には食べたくなるほど(笑)。糸島産の牡蠣はぶりっぶり甘みがあるのが特徴です。

- 糸島に移り住む前は、カキ小屋に行くこと自体が一大イベントだったのに、今では車で 15 分で行けるところもあるので、近所にご飯を食べに行くレベル。しかも、持ち込み OK の小屋もあり、家からお茶とおにぎりを持ってパパッと牡蠣だけを食べに行くことができます。嗚呼、贅沢ですよ、まったく。

- 今回は糸島市の広報誌にカキ飯のクーポンがっていた加布里(かぶり)漁港の「ひろちゃんカキ」にはじめて行ってみました。ここはガス火で牡蠣を焼きます。炭火のパチパチと火の粉が飛ぶ様子が好きで(笑)、今までは牡蠣を焼くのは炭火だーっ! とこだわっていたけれど、ガス火も十分美味しく、牡蠣の美味しさは炭火もガスも変わりませんでした!

- 我が家では牡蠣を焼く係は夫と決まっていますが、数年ぶりに行ったので焼くのに最初は少しカンが掴めなかったようだけど、段々と手際よくなってきて食べる係の私も絶妙なタイミングで頂くことができました(笑)。

- 冬のシーズンしかやっていないけど、糸島に来られるときは絶対にカキ小屋を堪能してくださいね☆ 友永真麗



小屋の後ろはスグ海! 壁も柵もないので飛び込めます(笑)



私が一番好きだった作品

お・ま・け 今号の打ち合わせ時に、淵野さんから藤吉さんの個展のチラシをいただいたので母と行ってきました♪ 藤吉さんも快くお写真とっていただきありがとうございました!

有限会社 淵野陶磁器原料

〒849-1426 佐賀県嬉野市塩田町大字五町田乙 287-1

TEL 0954-66-4207 / FAX 0954-66-3747 / E-mail info@fromform.jp

このニュースレターは、これまでご注文いただいた方、サンプルをお送りしました方、名刺交換をさせていただいた方など、ご縁がありましたみなさまにお送りしております。必要のない方は、たいへんお手数ですがその旨を上記までご連絡ください。



会長さんの 第27話 昔話



私どもの工場は過去、幾度となく水害に遭って来ました。もともと、動力源が水車だったため、工場自体が低い土地にあり、水車から電力に変わったあと水害は避けようがありませんでした。出来上がった粘土や半製品が水に浸かると廃棄しなければなりません。水といっても押し寄せてくるのは泥水です。私たちが

ちが作っているのは白い磁器土で、泥は真っ白に焼きたがりません。泥と混じったものは泣く泣く捨てていました。同じ年に2度被害を受けたこともあり、機械も水に浸かるため、それらが復旧するまで生産ができません。本体はきれいな水で泥汚れを洗い流しますが、モーターはその程度では元に戻りません。機械から取り外して、浸水していない自宅に運び、家の前でバラバラに分解して洗浄です。家の中には何台分ものモーター

部品が並んでいました。洗った後は乾燥させて再び組み立て、工場に持っていく機械に取り付けていました。水害の度にモーター復旧の作業を行って来ていたのは、ボイラー技士だった義理の叔父、大島久雄でした。うちが被害に遭うといつも駆けつけてくれました。叔父は、私の母レイの妹ツカの夫です。温厚ですごく人柄のよい方でした。母の実家は長男(母の兄です)がダメ息子だったので、母の妹ツカは実家を離れ、うちに身を寄

せていました。大東亜戦争前のことです。そして、ツカは淵野家の本家筋の口利きで近所の林田家に嫁ぎます。おそらく戦争中のことで、一度目の結婚です。戦後、息子の隆が生まれますが、数年後に夫が結核で亡くなってしまう。ツカは淵野家に戻ってきますが、隆は嫁ぎ先が引き取ります。当時24歳くらいだったツカは行く末を思っていた林田家の配慮だったのだろうと思えます。しばらくして、ツカは淵野家を出て小城炭鉱で



昭和51年の大雨で流れてしまった昔の橋の場所を指す会長

働き始めます。そこで出会ったのが大島久雄です。(つづく) 淵野義則

今年もあっという間に過ぎてしまいました! みなさま良いお年をお迎えください!

淵野 陶磁器



<https://fromform.jp/>